



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000  
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



## 歯学教育者ワークショップ開催される 教育委員長 井上 美津子



第15回昭和大学歯学教育者のためのワークショップは、平成22年7月30日(金)、31日(土)の1泊2日で三島市の東レ総合研修センターにおいて開催されました。

昨年度と同ワークショップでは、「昭和大学歯学部学生が卒業時に有している臨床能力(コンピテンシー)」をテーマにディスカッションがなされ、昨秋にはコンピテンシーの明文化が完成しました。本年3月に初めて実施された臨床実習終了時 OSCE (iOSCA) は、このコンピテンシーとの整合性を図りながら課題が作られ実施されました。また本年度の臨床実習も、各部門で臨床参加型実習への試みがなされ、臨床能力の向上が図られています。このような流れのなかで、本年度ワークショップのテーマは「歯学生は卒業時に何かできるべきなのか ~コンピテンシーとその評価~」とされ、昨年に引き続きアドバンスのみのワークショップとなりました。サブテーマは2つに分かれ、サブテーマ1は「臨床に生かせる歯科医学教育とその評価」で主に教授総会メンバーが、またサブテーマ2は「参加型臨床実習の指導と評価(iOSCA の課題)」で主に実習指導者会議のメンバーがワークを行いました。サブテーマ1の内容は「統合講義の問題点と改善策」「からだの病気の見直し」「臨床実習からみた基礎歯学との関わり」ということで4グループに分かれて検討を行い、サブテーマ2では「医療面接と配慮の必要な患者」「基礎やバーチャルペーシエントを含めた治療計画」「緊急対応・医療安全を考慮した治療技能」に関して3グループで検討を行いました。

交流校の先生方(北医療大、岩手医大、日歯大、福歯大)にもディスカッションに加わってもらい、

2日間の各グループと全体での討議の結果をプロダクトとしてまとめました。学生が理解しやすい教育、という視点で検討されたこれらのプロダクトは、来年度からの歯学部教育、とくに統合講義やからだの病気(ヒトの病気に変更予定)、D5の臨床科学の講義や、臨床実習・iOSCAなどに活かしていく予定です。

また、7月末に就任されたばかりの片桐学長には最初から最後までお付き合いくださいまして、討議にも加わっていただき貴重なご意見も頂戴しました。ご多忙な時期にもかかわらずご参加いただいた先生方、また準備・運営にあたったワークショップ運営委員会の皆様、教務課の皆様と、とくに今回のサブテーマ2を担当いただいた山本臨床実習終了時 OSCE 委員長、長谷川臨床実習責任者に感謝申し上げます。

## アジア太平洋歯科学生会議が開催されました 教育推進室 片岡 竜太



アジア太平洋歯科大学学生会議(APDSA)は、アジア太平洋地域12カ国の歯科医学生の国際交流団体で、毎年夏に行われる大会では、約300名の学生が集まり交流を深めます。今年は、8月16日から21日まで、日本の歯科学生が主幹となり大会が行われました。8月19日には都内の4大学(東京歯科大学、日本歯科大学、日大松戸歯科大学、昭和大学)が協力し、病院見学が行われました。

本歯学部では、6年の堤さん、5年の小杉さんを中心に「どのような見学実習にするか」学生の意向を集め、34名の海外の学生に対し、日本の歯科医療を紹介する講義と、外来見学およびスキルスラボにおける臨床準備教育の紹介を岡野病院長と井上教育委員長を中心に行いました。国際会議を主催し、海外の学生と歯科医療について語る学生達が、歯科医療を担う時代には真のグローバル化が進んでいる事を期待します。

## 歯学部オープンキャンパス開催される

入試常任委員 山本 松男



8月7日(土)の午後、歯科病院において第1回オープンキャンパスが開催されました。歯学部人気の低迷からここ数年参加人数が減少傾向にありました。幸い、今春の入試において本学歯学部は定員割れをすることなく新入学生を迎えることができましたが、世界的な経済不況等の影響もあり、本年度も昨年同様に入試関係には慎重に対応を続けています。本年度は昨年までの様子と異なり、予想以上に参加者があり、歯科病院6階第2講堂では補助椅子を用意するほどの満杯、資料も足りなくなりました。これは5年ぶりくらいの人数でした(平成22年度 77組 126名(父兄含む)、平成21年度 46組 70名)。

宮崎歯学部長の挨拶に続き、委員より4学部連携チーム医療を主にした歯学部教育の特色、富士吉田キャンパスでの生活、入試に関する説明が行われました。その後、本学卒業生(2回生安藤正実先生)からの激励の講演をいただき、参加者だけではなく教職員一同「元気」をもらいました。3階4階診療室における施設見学では、佐野晴男教授、馬場一美教授、真鍋厚史教授、高橋浩二教授から、それぞれ歯科の現状や最新の歯科医療に関する説明をして頂きました。誘導係にD4-D6の学生諸君をお願いしましたが、参加された高校生のご父兄からも、学生がしっかりしているとお褒めをいただきました。

高齢社会において安心安全の歯科医療を提供するためにチーム医療が重要で、本学の特性を活かし、社会で活躍できる歯科医師の教育を進めていきたいと思えます。

## カリフォルニア大学で講義を行いました

歯科矯正学教室 榎 宏太郎

カリフォルニア大学は米国最大規模の州立大学群で、キャンパスもバークレー、ロス、サンディエゴなど全部で十地区を数えます。カリフォルニア大学サンフランシスコ校(UCSF, University of California at San Francisco)は、医学部、歯学部、薬学部、看護学部からなり、サンフランシスコのダウンタウンから少し南西に向かった小高い山の中腹にあります。すぐ近くにはゴールデンゲートパークがあります。各学部とも全米

ランキングでは常に1位から5位の間に位置し、ノーベル賞受賞者も4人ほどおりますが、皆さん普通に学食でドーナツを食べております。歯学部は、一学年約80名で、うち20名は海外からの留学生が占めているとのことです。海外からの留学生受け入れは、国からの経済的援助がなされ、学部経営に大きく寄与しているとのことでした。



その他は、カレッジを出てから自身で多額の借金をして歯学部に入學してきます。

卒後の矯正科研修3年コースには、毎年、全米から30名以上の応募があります。今回は3学年全てに2時間の講義をしましたが、皆さん非常にまじめでよく勉強しています。また、我々が開発した治療装置をUCSFでも使用することが決まり、西海岸から東に向けた新たな戦略のスタートとなりました。



また、我々が開発した治療装置をUCSFでも使用することが決まり、西海岸から東に向けた新たな戦略のスタートとなりました。

## 学位審査論文についての申し合わせ事項が変更になりました

大学院運営委員会委員長 上條 竜太郎

本学大学院歯学研究科は、学位申請論文に関する規定の一部を改訂し、学位申請論文を英文のみに統一します。本改訂は、平成23年4月1日以降に提出される全ての学位論文(甲乙の両者)から適用されます。なお、学位論文が英文で執筆されていれば、論文公表雑誌は国外・国内を問いません。本改訂により歯学研究科は、海外を含め幅広く活躍する人材育成機能を強化し、より一層卓越した研究教育拠点の形成を目指します。ご不明な点は歯科病院教務課までお問い合わせ下さい。皆様のご協力をお願い申し上げます。

## 学部連携病棟実習トライアルが行われました

口腔衛生学教室 向井 美恵



平成23年度から必修となる「病院で患者中心のチーム医療を実践する」学部連携病棟実習のトライアルは、7月5日(月)～7月9日(金)に昭和大学病院呼吸器内科、附属東病院神経内科、藤が丘病院循環器内科、藤が丘リハビリテーション病院神経内科、横浜市北部病院呼吸器センターの各病棟において行われました。医・歯・薬・保健医療学部の学生がチームになって同じ患者を1週間担当しました。歯学部5年生も各病棟のチームに1名ずつ計5名の学生が参加しました。

私は昭和大学病院呼吸器内科、附属東病院神経内科の両病棟に参加しましたが、それぞれ気管腫瘍とパーキンソン病で入院している患者さんに対して、学生は連携協力して情報の共有により担当患者の課題についてプロブレムマップを作成しながら学部の専門を基に討議して最善の医療を検討し、一部実施していました。

歯学部の学生も義歯の取扱い、誤嚥性の肺炎の予防面からの口腔ケア方法、口腔機能の回復法などの課題や指導を通して積極的にチームに参加しており、チーム医療の一員としての役割や重要性を実際に体験できた実習と思いました。本実習は、中心となる患者さんと病棟スタッフの全面的な協力の下でのみ実施可能であり、学生ともども関係者に深く感謝しつつ実習を終了しました。

## D3からだの病気のPBLが行われました

総合内科 井上 紳

歯学部3年生のための「からだの病気PBL」は今回で5回目です。本年は昨年引き続き「肝硬変にともなう出血傾向と抜歯」のテーマで学生にシナリオを提示いたしました。「からだの病気PBL」は毎年、中村雅典PBL委員長、諸橋先生ほかPBL委員の諸先生方にご尽力いただいております。またファシリテータの

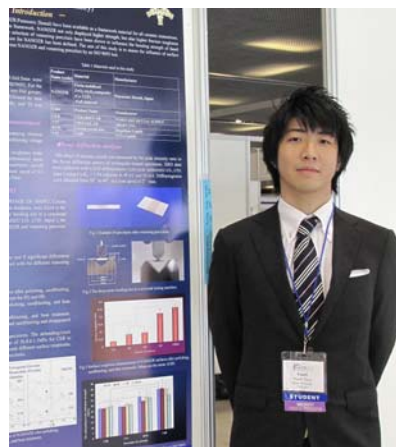
先生方には多忙な中で貴重な時間を割いていただき誠にありがとうございました。



PBLの特徴として、動機付け学習、問題基盤型学習、少人数のグループ学習が挙げられます。「からだの病気PBL」ではさらに、対診文書による臨床経過の把握、血算や凝固系検査、血中トランスアミナーゼ値など肝機能の見方について、学生さんに実習いただきました。また、本年から「からだの病気A」の初頭に歯科医学教育推進室の片岡室長、和田先生から「医療情報リテラシー」を講義いただきましたが、処方内容にある薬物の作用や適応などの検索についても学生は実体験したものと存じます。グループ学習では患者さんや同僚の話を聞き、それに対して自分の意見を相手に理解されるよう話す、コミュニケーション技術の習得が重要です。このコミュニケーション教育は、全寮制でスタートする本学の学生教育の根幹に位置づけられるものであり、さらに発展させてゆくべきものと思われれます。4学部の連携とともに、今後とも「からだの病気」教育にご援助とご協力をお願い申し上げます。

## 第88回 IADRに参加しました

大学院3年(歯科理工学専攻) 照井 優一



去る7月14日～17日(土)にスペイン・バルセロナのCCIBで、第88回IADR(国際歯科研究学会)が開催されました。同会では口頭発表963題、ポスター発表4006題の合計4969演題が発表され、世界中から研究者が集まり大変な盛況ぶりでした。

私は「Debonding/crack initiation strengths between zirconia-based nanocomposites and porcelain」という演題でポスター発表を行いました。

多くの大学や企業関係者から質問を受け、研究者の着眼点の鋭さに感銘を受けました。

近年の歯科医療における需要に比例してインプラントやセラミックス、CAD/CAM関連の研究発表が数多く見受けられたのが今回の特徴で、これからの歯科医療におけるデジタル化の流れを予見しているように思えました。今回のIADRに参加したことは、私にとって今後の研究推進に対する非常に良い刺激となりました。

## 第88回 IADR に参加しました

歯科補綴学教室 伊東 令華

7月14日から4日間にわたりスペイン・バルセロナで行われた第88回IADRに参加いたしました。今回は6000人以上の参加者があり、この数は通常の大会と比較して約1.5倍にあたるそうです。当教室からは船登講師と大学院の古山がポスターセッションにおいて発表を行いました。また、岩佐講師がOsteogenesis, Biological Effects のセッションの座長を務めるとともに、昨年まで留学していたカリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)での研究成果を口演発表し、海外の研究者から多くの質問を受け活発に意見交換されていました。私は留学先のUCLAから参加したのですが、母校の先生方の活躍を目のあたりにすることができたばかりでなく、気候、食事、文化等アメリカとは異なるヨーロッパの雰囲気に触れることができ、貴重な経験をすることができました。バルセロナの街からは、予想に反してワールドカップ優勝の盛り上がりを感じることはできませんでしたが、学会の合間に訪れたガウディの作品として有名なサグラダファミリアは、建築途上とはいえ、コンピュータのない時代に設計されたとは思えない素晴らしい建築物でした。また、私たちのグループは難を逃れましたが、何人かの日本人が学会期間中にスリの被害に遭われたようです。バルセロナを訪れる際にはご用心を！！



## 第37回アジア太平洋歯科学学生会議の参加生が昭和大学歯科病院を見学しました

歯学部5年 小杉 阿里沙

8月19日午前中、アジア太平洋歯科学学生会議—A PDSA・Asia Pacific Dental Student Association—に参加中の台湾、韓国、インドネシア、マレーシア、タイなどの歯科学学生34名が、昭和大学歯科病院に見学に参りました。1年前から試行錯誤してきたプログラムは



3つのパートに分けて、①岡野病院長をはじめ4名の先生方からの講義②各科見学③スキルスラボでのユニット操作・模型展示としました。印象的だったのは学生の真剣な眼差しはどの国籍でも同じだということです。私たち学生にとっても、知的に刺激し合える滅多にない経験となりました。プログラムが終わった時のアジアの学生の表情から、昭和大学歯科病院の活気を感じてくれたことが伝わって参りました。このプログラムをサポートして下さった岡野病院長を始め、すべての先生方に感謝いたします。



## 行事予定

広報委員長 井上 富雄

- 9月12日(日) : オープンキャンパス
- 9月23日(木) : 昭和大学学術シンポジウム
- 10月 2日(土) : 富士吉田父兄会
- 10月 8日(金) : 旗が岡祭・いぶき祭  
—10日(日)
- 10月19日(火) : 解剖慰霊祭
- 10月23日(土) : 父兄会秋季部会

## 診療統計(平成22年7月分)

医事課長 久米 徳明

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	18,801	723.1	732.0	757.0
入院患者	493	15.9	14.4	13.2

## 受賞

広報委員長 井上 富雄

・南保友樹(歯科矯正学教室 員外助教) 第69回東京矯正歯科学会大会(平成22年7月15日(木) 東京有楽町朝日ホール)にて優秀発表賞を受賞しました。演題名「抜去歯を用いた新しい顎骨再生療法に関する基礎研究について」

## 編集後記

歯科放射線学教室 松田 幸子

今回も元気な学生さんの姿や歯学部のお送りします。お忙しい中、執筆していただいた方には感謝しております。